

衆議院財務金融委員会ニュース

H24.8.24 第180回国会第19号

8月24日（金）、第19回の委員会が開かれました。

- 1 財政運営に必要な財源の確保を図るための公債の発行の特例に関する法律案（内閣提出第2号）
 - ・野田内閣総理大臣及び安住財務大臣に対し質疑を行いました。
 - ・糸川正晃君（民主）から質疑終局の動議が提出され、採決を行った結果、賛成多数をもって可決されました。（賛成 - 民主 反対 - 生活、公明、共産、田中康夫君）
 - ・糸川正晃君（民主）、菅川洋君（生活）、竹内譲君（公明）及び佐々木憲昭君（共産）が討論を行いました。
 - ・本法律案について採決を行った結果、賛成多数をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。（賛成 - 民主 反対 - 生活、公明、共産、田中康夫君）

（質疑者及び主な質疑内容）

岸本周平君（民主）

- ・特例公債法案は本来予算と同時に成立させるべきであるが、政府として本法案の成立に向けてどのような努力をしたのか。
- ・「予算編成のあり方に関する検討会」で示された4つの柱（複数年度を視野に入れた、トップダウン型の予算編成、予算編成・執行プロセスの抜本的な透明化・可視化、年度末の使い切り等、ムダな予算執行の排除、「政策達成目標明示制度」の導入により、国民に対する成果を重視）について、政府は予算編成にどのように反映してきたのか。
- ・過去に自民党が提出した財政健全化法案については与野党で吟味していくべきであったと考えるが、野田内閣総理大臣の見解を伺いたい。

大谷啓君（生活）

- ・特例公債法案については消費増税を前提とした内閣修正が施され遺憾であるだけでなく、その審議の在り方についても厚生労働委員会と連合審査を行うなど丁寧な議事を行うべきであったと考えるが、野田内閣総理大臣の見解を伺いたい。
- ・我が国の現状を考えれば増税すべき時期とは思えないが、野田内閣総理大臣が消費税増税に当たり「待たなし」と発言する根拠は何か。
- ・野田内閣総理大臣は昨年末に身を切る覚悟を「君子豹変す」という言葉で表現したが、会期末を迎えどのように総

括するか。

竹内譲君（公明）

- ・特例公債法案を参議院に送付したとしても否決・廃案となれば、それは予算自体の否決、ひいては内閣不信任にも値すると思うが、野田内閣総理大臣は参議院における法案成立の見通しをどのように考えているのか。
- ・仮に参議院において特例公債法案が否決・廃案となった場合に、その責任は野党にあるとするために衆議院を通過させるとの見解もあるが、野田内閣総理大臣の認識を伺いたい。
- ・野田内閣総理大臣は平成24年度補正予算、平成25年度総予算の予算編成をする意思があるのか。

佐々木憲昭君（共産）

- ・参議院において特例公債法案が成立する見通しのないまま、先日の「政府・民主三役会議」において特例公債法案を参議院に送付することを野田内閣総理大臣も確認したと報道されたが、党首として無責任な対応ではないか。
- ・社会保障と税の一体改革に当たり、3党合意において社会保障改革を検討するための「社会保障制度改革国民会議」が設置されることとされたが、野田内閣総理大臣は今国会中に設置するつもりはあるのか。
- ・富裕層に対する増税として税制抜本改革法に規定されていた所得税及び相続税の増税が3党合意により削除されたが、今後の見通しについて安住財務大臣に伺いたい。